



2023年3月期 第2四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2022年10月31日

上場会社名 アイティメディア株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2148 URL <https://corp.itmedia.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 CEO (氏名) 大槻 利樹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO 兼 管理本部長 (氏名) 加賀谷 昭大 TEL 03-5210-5012
 四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 2022年12月6日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有 <https://corp.itmedia.co.jp/ir/>
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績 (2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	4,206	13.3	1,392	10.2	1,390	10.7	946	10.6	946	10.6	946	24.3
2022年3月期第2四半期	3,711	19.6	1,263	45.3	1,255	51.8	855	53.9	855	53.9	761	△27.0

	基本的1株当たり 四半期利益		希薄化後1株当たり 四半期利益	
	円	銭	円	銭
2023年3月期第2四半期	47	85	47	26
2022年3月期第2四半期	43	09	42	18

(2) 連結財政状態

	資産合計		資本合計		親会社の所有者に 帰属する持分		親会社所有者 帰属持分比率	
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	%	%	
2023年3月期第2四半期	10,326	8,644	8,644	83.7				
2022年3月期	10,048	7,932	7,932	78.9				

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2022年3月期	—	11.00	—	12.00	23.00	
2023年3月期	—	14.00				
2023年3月期 (予想)			—	14.00	28.00	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	8,730	7.9	2,920	8.7	1,970	9.4	99	59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

詳細は、添付資料8ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	20,853,400株	2022年3月期	20,837,300株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	1,072,098株	2022年3月期	1,072,098株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	19,772,911株	2022年3月期2Q	19,852,103株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）8ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・四半期決算補足説明資料は、2022年10月31日に当社ホームページ（<https://corp.itmedia.co.jp/ir/>）に掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	8
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	9
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	9
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	10
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	12
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(セグメント情報)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の売上収益は、42億6百万円（前年同期比4億95百万円増、13.3%増）となり、第2四半期連結累計期間として過去最高となりました。テクノロジー市場の活況と企業のマーケティング活動のデジタルシフトによる顧客の需要拡大継続を背景に、売上収益の成長が続いております。

営業利益については、13億92百万円（同1億29百万円増、10.2%増）となり、第2四半期連結累計期間として過去最高となりました。期初からの計画の通り、コンテンツへの投資を拡充しつつも、増益を継続しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上収益は42億6百万円（同13.3%増）、営業利益は13億92百万円（同10.2%増）、四半期利益は9億46百万円（同10.6%増）および親会社の所有者に帰属する四半期利益は9億46百万円（同10.6%増）となりました。

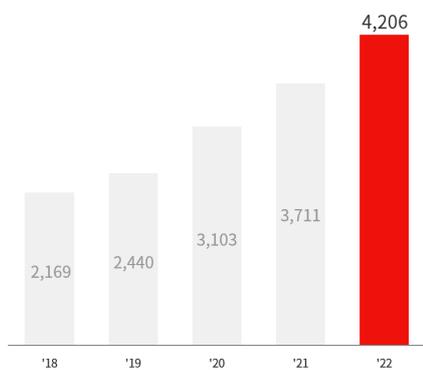
連結経営成績の概況

(単位：百万円)

	前第2四半期 (2021年4月～9月)	当第2四半期 (2022年4月～9月)	増減額	増減率 (%)
売上収益	3,711	4,206	+495	+13.3
EBITDA ^{※1}	1,401	1,525	+124	+8.9
営業利益	1,263	1,392	+129	+10.2
税引前利益	1,255	1,390	+134	+10.7
四半期利益	855	946	+90	+10.6
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	855	946	+90	+10.6

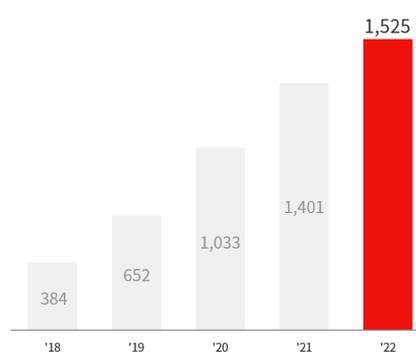
※1 EBITDA: 営業利益+減価償却費+無形資産の償却費+のれんの減損+株式報酬費用-その他の一時収益+その他の一時費用

■売上収益

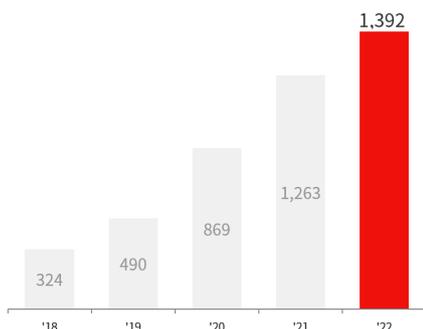


■EBITDA

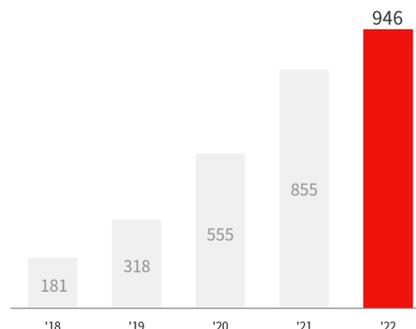
(単位：百万円)



■営業利益



■親会社の所有者に帰属する四半期利益



報告セグメント別の概況

(単位：百万円)

	前第2四半期 (2021年4月～9月)	当第2四半期 (2022年4月～9月)	増減額	増減率(%)
リードジェン事業				
売上収益	1,617	1,786	+168	+10.4
EBITDA	512	578	+66	+13.0
営業利益	432	502	+69	+16.1
メディア広告事業				
売上収益	2,093	2,420	+327	+15.6
EBITDA	889	946	+57	+6.5
営業利益	830	890	+59	+7.2

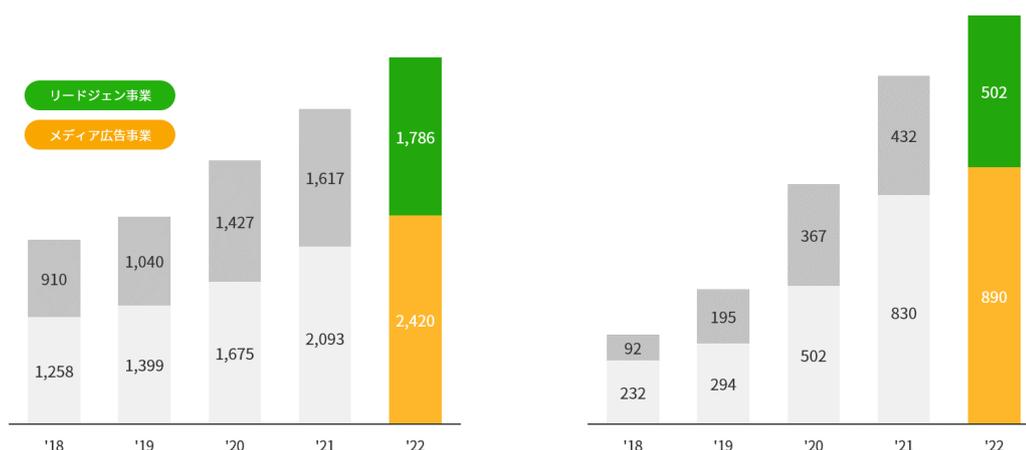
リードジェン事業：専門メディア群から得られるデータを活用して特定のB2B商材に関心の高いユーザーを判別し、顧客企業に見込み客リストとして提供する事業

メディア広告事業：自社運営メディアの広告枠、およびメディアコンテンツを活用した企画商品を販売する事業

■セグメント別売上収益

■セグメント別営業利益

(単位：百万円)



セグメント別売上収益の分解情報 (収益モデル別)

(単位：百万円)

	リードジェン事業			メディア広告事業			合計		
	前第2四半期	当第2四半期	前年同期比	前第2四半期	当第2四半期	前年同期比	前第2四半期	当第2四半期	前年同期比
リードジェネレーション	1,256	1,420	+164 +13.1%	—	—	—	1,256	1,420	+164 +13.1%
デジタルイベント	361	365	+3 +1.1%	451	566	+114 +25.3%	813	931	+118 +14.5%
運用型広告	—	—	—	638	726	+87 +13.8%	638	726	+87 +13.8%
予約型広告・その他	—	—	—	1,003	1,128	+124 +12.4%	1,003	1,128	+124 +12.4%
合計	1,617	1,786	+168 +10.4%	2,093	2,420	+327 +15.6%	3,711	4,206	+495 +13.3%

■当第2四半期のリードジェン事業

リードジェン事業の売上収益は、17億86百万円（前年同期比10.4%増）となりました。

テクノロジー市場の活況と企業のマーケティング活動のデジタルシフトによる顧客の需要拡大継続を背景に、前期に続き、成長が継続しております。

- ・リードジェン会員数は115万人となり、前年同期比9.2%増加しました。
- ・システム開発会社向けの案件紹介サービスを提供する発注ナビ株式会社では、加盟社が3,000社を超え、その影響力が拡大しております。

<https://hnavi.co.jp/info/202206011400/>

リードジェン事業の主要メディア一覧

顧客分野	メディア・サービス	情報の内容	対象とするユーザー
IT&ビジネス分野	 https://techtarget.itmedia.co.jp/	IT関連製品やサービスの導入・購入を支援する情報並びに会員サービス	企業の情報システムの導入に意思決定権を持つキーパーソン
	 https://kn.itmedia.co.jp/		
	 https://hnavi.co.jp/	情報システム開発会社検索・比較サービス	企業情報システム開発の発注担当者
	 https://marketing.itmedia.co.jp/	デジタルマーケティングの最新動向や製品・サービスの情報	企業のマーケティング活動に携わる担当者
産業テクノロジー分野	 https://techfactory.itmedia.co.jp/	製造業のための製品／サービスの導入・購入を支援する会員制サービス	製造業に従事するエンジニアや製品・サービス導入担当者
	デジタルイベント	展示会やセミナーなどのイベントをオンラインで開催するサービス	

- ・当第2四半期連結会計期間における掲載記事のご紹介
（一部の記事においては、記事全文を閲覧する場合に会員登録が必要な場合がございます。）

TechTarget ジャパン

OSSの“謎”現象「入れた覚えがないのに大量利用」はこうして起こる

企業はOSSを知らないうちに自社のシステムに組み込んでいる現実がある。使用しているOSSを検出し、OSSに含まれる脆弱性によるリスクを減らすには、どうすればよいのか。

<https://techtarget.itmedia.co.jp/tt/news/2208/10/news06.html>

キーマンズネット

あるツールをExcelマクロ代わりに使ったらDXが進んだ話

現代企業にとって共通の課題となるのが「デジタルトランスフォーメーション」。その文脈でRPAやAIなどといった技術の活用が語られるが、取材で聞いた企業では、RPAやAIでもないあるツールがDXを支える主力ツールになっているという。

<https://kn.itmedia.co.jp/kn/articles/2207/28/news118.html>

ITmedia マーケティング

「ペプシチャレンジ」で煽られて焦ったコカ・コーラの“痛恨のやらかし”とは？

長年の間「コーラ戦争」を続けてきたCoca-ColaとPepsi。マーケティング施策でも切磋琢磨してきた両ブランドだが、それぞれに失敗も経験している。

<https://marketing.itmedia.co.jp/mm/articles/2208/10/news122.html>

TechFactory

「USBメモリ紛失事件」で私たちが学ぶべきこと

「モノづくりに携わる人」だからこそ、もう無関心ではいられない情報セキュリティ対策の話。でも堅苦しい内容はちょっと苦手……という方に向けて、今日から使えるセキュリティ雑学・ネタをお届け！

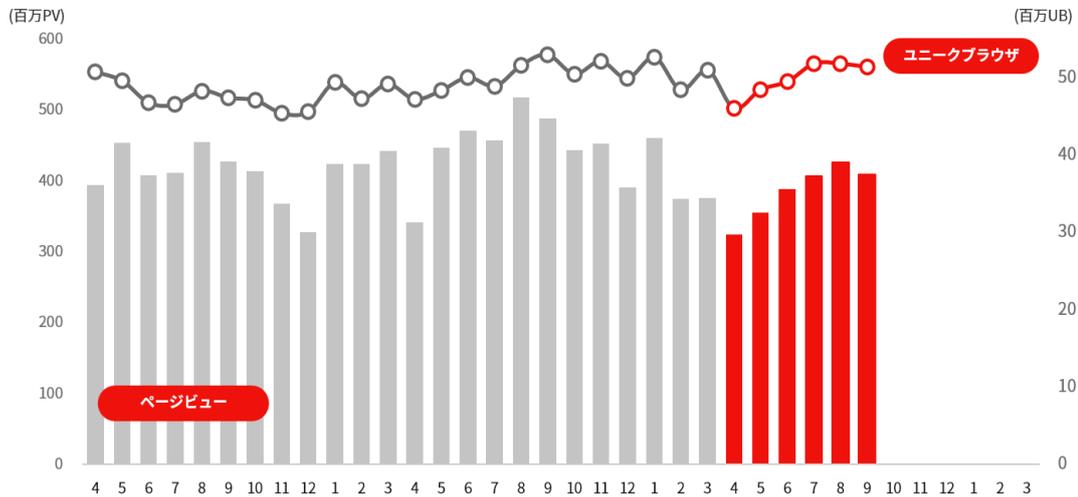
<https://techfactory.itmedia.co.jp/tf/articles/2207/26/news055.html>

■当第2四半期のメディア広告事業

メディア広告事業の売上収益は、24億20百万円（前年同期比15.6%増）となりました。

デジタルトランスフォーメーション加速を背景としたクラウド・SaaS領域や産業テクノロジー領域における広告需要拡大、メディア主催型デジタルイベントの好調および運用型広告収益拡大により、売上収益の成長が続いております。

- ・全社のメディア力を計る指標であるページビュー(PV)^{※2}、ユニークブラウザ(UB)^{※3}の当第2四半期連結会計期間での最高値はそれぞれ、ページビューが月間4.2億PV、ユニークブラウザが月間5,100万UBとなっております。



※2 ページビュー：あるウェブサイトがどの程度アクセスされているかを示す単位のひとつ。1ページビューとは、あるウェブサイトを開覧しているユーザーのブラウザに、そのウェブページが1ページ分表示されることを指します。通常、ウェブサイトを見ているユーザーは、サイト内の複数のページを閲覧するため、そのサイトを訪問した実質のユーザー数（ユニークブラウザ数）よりもページビュー数のほうが数倍多くなります。

※3 ユニークブラウザ：ウェブサイトがどの程度アクセスされているかを示す指標のひとつ。1ユニークブラウザとは、ある一定期間内にウェブサイトにアクセスされた、重複のないブラウザ数を指します。ウェブサイトの人気や興味の度合い、その推移を判断する指標として広く用いられています。

- ・広告収益の約4割が運用型広告収益となり、ねとらぼが運用型広告収益の拡大をけん引しております。
- ・クラウド・SaaS領域のコンテンツ強化のため、新たな専門メディア「SaaS セレクト with ITreview」を開設しました。

<https://www.itmedia.co.jp/news/subtop/saasselect/>

- ・当連第2四半期連結会計期間に開催した主なメディア主催型デジタルイベント

ITmedia SaaS EXPO 2022夏：ITmedia ビジネスオンライン、ITmedia NEWS

<https://ve.itmedia.co.jp/saas2022s/index.html>

ITmedia DX Summit Vol.13：ITmedia エンタープライズ、ITmedia エグゼクティブ

<https://enq.itmedia.co.jp/on24u/form/dx2208>

ITmedia Virtual EXPO 2022 秋：MONOist、EE Times Japan、EDN Japan、スマートジャパン、BUILT、TechFactory

<https://ve.itmedia.co.jp/em/2022a/index.html>

ITmedia Security Week 2022 秋：@IT、ITmedia エンタープライズ、ITmedia エグゼクティブ

<https://enq.itmedia.co.jp/on24u/form/sec2209>

@IT Cloud Native Week 2022秋：@IT

<https://enq.itmedia.co.jp/on24u/form/cnw2209>

- ・各領域における主催型デジタルイベントの規模拡大が進んでおります。さらなる強化を図るため、既存ブランドの強化と共に展開領域の拡大、イベントの新設を図っております。

(関連プレスリリース)

アイティメディア、テクノロジー専門デジタルイベント事業を強化
～セキュリティ、SaaS、DXなど分野ごとに大型デジタルイベントを確立～

<https://corp.itmedia.co.jp/pr/releases/2022/09/05/securityweek/>

アイティメディア、デジタルイベントで新ブランド「Digital Business Days」

～ITmediaと連動したビジネス・DX領域の大型デジタルイベント～

<https://corp.itmedia.co.jp/pr/releases/2022/10/11/digitalbusinessdays/>

メディア広告事業の主要メディア一覧

顧客分野	メディア・サービス	情報の内容	対象とするユーザー
	 https://atmarkit.itmedia.co.jp/	専門性の高いIT関連情報・技術解説	システム構築や運用等に携わるIT関連技術者
IT&ビジネス分野	 https://www.itmedia.co.jp/news/  https://www.itmedia.co.jp/enterprise/  https://mag.executive.itmedia.co.jp/	IT関連ニュースおよび企業情報システムの導入や運用等の意思決定に資する情報	IT業界関係者、企業の情報システム責任者および管理者
	 https://www.itmedia.co.jp/business/	時事ニュースの解説、仕事効率向上に役立つ情報	20～30代ビジネスパーソン
産業テクノロジー分野	 https://monoist.itmedia.co.jp/  https://eetimes.itmedia.co.jp/  https://edn.itmedia.co.jp/	エレクトロニクス分野の最新技術解説並びに会員サービス	エレクトロニクス関連の技術者
	 https://built.itmedia.co.jp/	建築・建設分野の最新技術解説並びに会員サービス	建築・建設業界の実務者
	 https://www.itmedia.co.jp/smartjapan/	節電・蓄電・発電のための製品検討や導入に役立つ情報	企業や自治体の総務部、システム部、小規模工場経営者
コンシューマー分野	 https://www.itmedia.co.jp/mobile/  https://www.itmedia.co.jp/pcuser/  https://www.itmedia.co.jp/fav/	パソコン、スマートフォン、AV機器等デジタル関連機器の製品情報、活用情報	デジタル関連機器等の活用に積極的な消費者
	 https://nlab.itmedia.co.jp/	ネット上の旬な話題の提供	インターネットユーザー

- ・当第2四半期連結会計期間における掲載記事のご紹介
(一部の記事においては、記事全文を閲覧する場合に会員登録が必要な場合がございます。)

@IT

元任天堂開発者が伝授、3つのモノサシを使ってアイデアの「いい／わるい」を計測する
相対性理論、印刷、iPhone——世の中を変える発明は、全て優れたアイデアから生まれた。では優れたアイデアとは何なのだろうか。あなたのそのアイデアは、いいアイデアなのか、そうではないアイデアなのか、「アイデアの測り方」と「アイデアの見極め方」を、WiiやSwitchの開発者が伝授する。

<https://atmarkit.itmedia.co.jp/ait/articles/2208/16/news004.html>

ITmedia ビジネスオンライン

刺身に電気を流して「アニサキス」撲滅 苦節30年、社長の執念が実った開発秘話
魚介類にひそむ寄生虫「アニサキス」による食中毒被害が相次いでいる。胃を突き刺すように侵入し、下腹部の激しい痛みや嘔吐を引き起こすとされる。この食中毒を防ぐため、創業以来30年以上に渡り、アニサキスと戦い続けてきた水産加工会社がある。「日本の生食文化を守りたい」との一心で試行錯誤を重ね、昨年6月、切り身に電気を瞬間的に流してアニサキスを殺虫する画期的な装置を開発した。開発秘話を社長に聞いた。

<https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2206/15/news056.html>

スマートジャパン

FIT終了後の中小規模太陽光をどうすべきか——政府が長期稼働に向けた施策を検討
日本の主力電源として期待される太陽光発電。既に導入されている太陽光発電の長期稼働を支える施策として、政府では小規模な発電設備を集約（アグリゲーション）する方法を検討中だ。

<https://www.itmedia.co.jp/smartjapan/articles/2207/25/news057.html>

Fav-Log by ITmedia

お手頃な「電波ソーラー腕時計」おすすめ5選 メンテナンスが簡単！ ビジネスでも使いやすい機能的なモデル【2022年6月版】

時刻の正確さと、メンテナンスの手間が少ないことから人気を集めている電波ソーラー腕時計。カシオ計算機（CASIO）やシチズン時計（CITIZEN）、セイコーウォッチ（SEIKO）などの人気時計メーカーからも数多くの電波ソーラー腕時計が販売されています。

<https://www.itmedia.co.jp/fav/articles/2206/15/news093.html>

ねとらぼ生物部

やたら緑の幼虫を発見→1カ月育ててみた結果…… ため息が漏れるほど美しいチョウの羽化を見届けた観察日記に「感動する」

YouTubeチャンネル「おたま日記Otama diary」に投稿された、カラスアゲハの羽化の瞬間が「感動する」と話題になっています。動画は記事執筆時点で5万回再生を突破。

<https://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/2208/05/news018.html>

ねとらぼ調査隊

記憶を消してもう一度見たい「韓国ドラマ」4選！ 人気作品から韓ドラ初心者にもおすすめの王道ラブストーリーまで【2022年8月】

設定の面白さ、引き込まれるストーリー展開、映像の美しさや迫力、作品を盛り上げる感動的な音楽、魅力的なキャスティングなど、そのクオリティの高さから日本でも高い人気を誇る「韓国ドラマ」。恋愛・ラブコメ系やサスペンス、ヒューマンドラマなどさまざまなジャンルの作品が日本でもたびたび大きな話題を呼んでいます。

<https://nlab.itmedia.co.jp/research/articles/862003/>

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び資本の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は103億26百万円（前連結会計年度比2億77百万円増）となりました。主な増減の内訳は、現金及び同等物の増加3億98百万円、使用権資産の減少87百万円および無形資産の減少30百万円であります。

負債合計は16億81百万円（同4億34百万円減）となりました。主な増減の内訳は、営業債務及びその他の債務の減少93百万円、リース負債の減少88百万円、未払法人所得税の減少1億40百万円、契約負債の減少41百万円およびその他の流動負債の減少68百万円であります。

資本合計は86億44百万円（同7億12百万円増）となりました。主な増減の内訳は、利益剰余金の増加7億8百万円であります。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末より3億98百万円増加し、72億14百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果、増加した資金は7億27百万円となり、前年同四半期と比べ1億円増加いたしました。主な内訳は、税引前四半期利益13億90百万円、営業債務及びその他の債務の減少額1億円および法人所得税の支払額5億86百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果、減少した資金は12百万円となり、前年同四半期と比べ2百万円減少いたしました。主な内訳は、有形固定資産及び無形資産の取得による支出12百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果、減少した資金は3億16百万円となり、前年同四半期と比べ3億71百万円増加いたしました。主な内訳は、配当金の支払額2億37百万円およびリース負債の支払額88百万円であります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績は計画の範囲内で推移しているため、2022年4月28日公表の業績予想数値に変更はございません。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
(資産の部)		
流動資産		
現金及び現金同等物	6,815,771	7,214,674
営業債権及びその他の債権	1,293,583	1,262,833
その他の金融資産	500,000	500,000
棚卸資産	16,939	17,816
その他の流動資産	101,746	131,833
流動資産合計	8,728,040	9,127,157
非流動資産		
有形固定資産	122,057	113,233
使用権資産	175,986	87,993
のれん	443,471	443,471
無形資産	208,801	177,821
その他の金融資産	146,919	146,919
繰延税金資産	219,514	221,688
その他の非流動資産	3,800	7,990
非流動資産合計	1,320,551	1,199,118
資産合計	10,048,592	10,326,276
(負債及び資本の部)		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	401,342	307,882
リース負債	162,671	74,667
未払法人所得税	586,677	446,566
契約負債	322,641	281,481
その他の流動負債	577,901	509,008
流動負債合計	2,051,234	1,619,606
非流動負債		
リース負債	2,403	1,754
引当金	28,950	28,950
その他の非流動負債	33,352	31,071
非流動負債合計	64,705	61,776
負債合計	2,115,940	1,681,382
資本		
親会社の所有者に帰属する持分		
資本金	1,825,609	1,830,367
資本剰余金	2,108,276	2,106,833
利益剰余金	5,143,378	5,852,305
自己株式	△1,144,612	△1,144,612
親会社の所有者に帰属する持分合計	7,932,652	8,644,894
資本合計	7,932,652	8,644,894
負債及び資本合計	10,048,592	10,326,276

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書
要約四半期連結損益計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上収益	3,711,505	4,206,849
売上原価	1,244,666	1,492,060
売上総利益	2,466,839	2,714,789
販売費及び一般管理費	1,203,867	1,322,461
その他の営業損益	275	338
営業利益	1,263,247	1,392,666
その他の営業外損益(△は費用)	△2,525	△2,582
持分法による投資損益(△は損失)	△4,797	—
税引前四半期利益	1,255,924	1,390,083
法人所得税	400,508	443,974
四半期利益	855,416	946,109
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	855,416	946,109
非支配持分	—	—
	855,416	946,109
親会社の所有者に帰属する1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	43.09	47.85
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	42.18	47.26

要約四半期連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期利益	855,416	946,109
その他の包括利益(税引後)		
純損益に振り替えられることのない項目		
FVTOCIの資本性金融資産	△94,412	—
純損益に振り替えられることのない項目合計	△94,412	—
その他の包括利益(税引後)合計	△94,412	—
四半期包括利益合計	761,003	946,109
四半期包括利益合計の帰属		
親会社の所有者	761,003	946,109
非支配持分	—	—
	761,003	946,109

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	親会社の所有者に帰属する持分					合計	資本 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	その他の 包括利益 累計額		
2021年4月1日	1,735,570	1,926,189	3,607,628	△344,517	192,460	7,117,330	7,117,330
四半期包括利益							
四半期利益	—	—	855,416	—	—	855,416	855,416
その他の包括利益	—	—	—	—	△94,412	△94,412	△94,412
四半期包括利益合計	—	—	855,416	—	△94,412	761,003	761,003
所有者との取引額等							
新株の発行	78,307	76,750	—	—	—	155,058	155,058
新株予約権の発行	—	366	—	—	—	366	366
剰余金の配当	—	—	△178,375	—	—	△178,375	△178,375
自己株式の取得	—	△3,700	—	△570,388	—	△574,088	△574,088
株式に基づく報酬取引	—	△2,315	—	—	—	△2,315	△2,315
所有者との取引額等合計	78,307	71,101	△178,375	△570,388	—	△599,355	△599,355
2021年9月30日	1,813,878	1,997,290	4,284,668	△914,906	98,047	7,278,979	7,278,979

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	親会社の所有者に帰属する持分				合計	資本 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式		
2022年4月1日	1,825,609	2,108,276	5,143,378	△1,144,612	7,932,652	7,932,652
四半期包括利益						
四半期利益	—	—	946,109	—	946,109	946,109
四半期包括利益合計	—	—	946,109	—	946,109	946,109
所有者との取引額等						
新株の発行	4,757	4,656	—	—	9,414	9,414
剰余金の配当	—	—	△237,182	—	△237,182	△237,182
株式に基づく報酬取引	—	△6,099	—	—	△6,099	△6,099
所有者との取引額等合計	4,757	△1,442	△237,182	—	△233,867	△233,867
2022年9月30日	1,830,367	2,106,833	5,852,305	△1,144,612	8,644,894	8,644,894

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	1,255,924	1,390,083
減価償却費及び償却費	140,106	138,673
持分法による投資損益 (△は益)	4,797	—
株式報酬費用	△2,282	△6,103
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加額)	111,538	30,750
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少額)	△152,229	△100,321
契約負債の増減額 (△は減少額)	△14,594	△41,159
その他	△154,403	△98,072
小計	1,188,857	1,313,850
利息及び配当金の受取額	141	153
利息の支払額	△196	△92
法人所得税の支払額	△562,280	△586,574
営業活動によるキャッシュ・フロー	626,522	727,336
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△200,000	△200,000
定期預金の払戻による収入	200,000	200,000
有形固定資産及び無形資産の取得による支出	△18,300	△12,015
差入保証金の回収による収入	48,798	—
事業譲受による支出	△40,000	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,502	△12,015
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株の発行による収入	155,025	9,418
新株予約権の発行による収入	366	—
自己株式の取得による支出	△570,388	—
配当金の支払額	△179,183	△237,182
リース負債の返済による支出	△90,174	△88,652
その他	△3,700	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△688,056	△316,416
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少額)	△71,036	398,903
現金及び現金同等物の期首残高	5,877,480	6,815,771
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,806,443	7,214,674

(5) 要約四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっている事業セグメントを基礎に決定しております。

「リードジェン事業」は、会員制メディアおよび各メディアのデジタルイベントを通じて企業におけるIT製品・サービスの導入・購買に関する支援や情報提供サービスを行っております。

「メディア広告事業」は、IT&ビジネス分野、産業テクノロジー分野、コンシューマー分野に関して、専門性の高い情報をユーザーに提供し、主に広告商品を企画・販売・掲載するための各メディアの企画・運営・情報掲載サービスの提供およびその他の法人向けサービスの提供を行っております。

各報告セグメントの会計方針は、当社グループの会計方針と同一であります。報告セグメントの利益は、「営業利益」であります。セグメント利益の算定にあたっては、特定の報告セグメントに直接関連しない費用を、最も適切で利用可能な指標に基づき各報告セグメントに配分しております。セグメント間の売上収益は、市場実勢価格に基づいております。

(2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる収益及び業績は、以下の通りです。

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	連結
	リードジェン 事業	メディア広告 事業	合計		
売上収益					
外部顧客からの売上高	1,617,925	2,093,579	3,711,505	—	3,711,505
セグメント間の売上高	—	300	300	△300	—
合計	1,617,925	2,093,879	3,711,805	△300	3,711,505
セグメント利益	432,466	830,781	1,263,247	—	1,263,247
その他の営業外損益(△は費用)					△2,525
持分法による投資損益(△は損失)					△4,797
税引前四半期利益					1,255,924

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	連結
	リードジェン 事業	メディア広告 事業	合計		
売上収益					
外部顧客からの売上高	1,786,181	2,420,667	4,206,849	—	4,206,849
セグメント間の売上高	—	300	300	△300	—
合計	1,786,181	2,420,967	4,207,149	△300	4,206,849
セグメント利益	502,086	890,579	1,392,666	—	1,392,666
その他の営業外損益(△は費用)					△2,582
税引前四半期利益					1,390,083